

福寿院跡

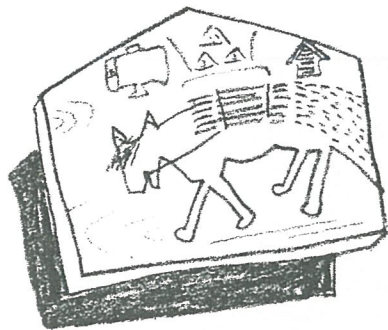
天正四年北畠氏滅亡時、その家臣加藤清左衛門佳方が菩提寺福寿院をここへ移し、弔ったといわれている。正徳五年住職誠善が加藤家の隠居を買受けて飯堂とし、寛政三年章譽の時に茅葺の堂を再建。

ひとくちばなし

絵馬殿跡

謡曲「絵馬」の原形となったと伝わる斎宮の絵馬堂。大晦日の夜に掛けられる絵馬の柄でその年の稲や綿の豊・凶を占った。絵馬堂の小祠は明治まで現存していた。

エンマ川(斎宮跡東限の堀)○楠の森神社跡○



竹茗舎(ちくめいしゃ)

平安時代に「竹の都」と称された明和町斎宮の土地に因んで竹の文化を発信している。館の内外、竹笹尽くしの「竹の博物館」。

明和町まちかど博物館
TEL 090-5667-2001



たてば茶屋

竹川の「たてば茶屋」は、江戸時代に、街道を往来する駕籠や荷馬等の人夫が休息や交代をしたところである。



稲置川(祓川)「伊勢参宮名所図会」より

笹笛川

至明星

至松阪

道標「斎王隆子の墓・「経澤之花園」○カワラヤ・須賀屋(庄屋)○浪花屋(旅籠・茶屋)○加藤(庄屋)○

福寿院跡(北畠氏の菩提寺)○

有明池の碑○

六地藏石幢(室町県指定有形文化財)○

道標「天満宮の道」○

絵馬殿跡○

呉竹の藪跡○

北野天満宮 移設された門・灯籠移設○

綿屋(綿打ち直し)○

服部家(庄屋)○

キドヤ(瓦製造)○

竹神社(明治四十四年合祀)○

トウフヤ(豆腐)○

宇志葉神社、観音寺跡(寺子屋)○

道標「斎王宮之遺蹟」○

斎王の森

いつきのみや歴史体験館

秋葉神社○

カワサキヤ(味噌)○

マンジユヤ(饅頭)○

岩見自動車

近鉄斎宮駅

田中屋(材木)○

斎宮村役場○

千歳屋(旅籠)○

斎宮村役場○

床田(床屋)○

喜楽亭(料理屋)○

酒屋(酒製造・販売)○

柳屋(茶屋)○

北島医院○

御殿(洋医)○

白子屋(料理屋)○

大盛座(芝居小屋)○

立場茶屋(籠馬・人力丁場)○

花園の森(源氏物語にも登場)○

かこや(竹箒・ざる製造販売)○

勝見

中町

牛葉

竹川

金剛坂

近鉄山田線

近鉄溝代駅

茶屋

釜屋(旅籠)○

柳田屋(旅籠)○

大文字屋(人力・馬)○

くすり屋(薬屋)○

かこ屋

幸橋(昭和二年十二月竣工)

岡野屋(料理・旅籠)○

クスリ屋

森島新宅(味噌・溜り製造販売)○

森島本家(庄屋)○

フジヤ(呉服)○

森島本家(庄屋)○

クスリ屋

正木病院

森島新宅(味噌・溜り製造販売)○

森島本家(庄屋)○

フジヤ(呉服)○

森島本家(庄屋)○

クスリ屋

正木病院

森島新宅(味噌・溜り製造販売)○

森島本家(庄屋)○

フジヤ(呉服)○

森島本家(庄屋)○

クスリ屋

正木病院

森島新宅(味噌・溜り製造販売)○

森島本家(庄屋)○

盃地藏
防火の「ごりやく」ありと、付近の信仰を集めた。小路の改修に際し、地藏を今の場所に祀った。地藏の前の小路「盃の世古」は、大仏山南麓に通ずる古道でもあった。



カミキユウ(雑貨・瓦製造)○

山上(瓦製造)○

吉野家

浅尾家(材木商)○

角屋(米・塩・煙草)○

三木亭(旅籠)○

マツダヤ(旅籠)○

チヨウチンヤ(提灯)○

和泉屋(酒造業・旅籠)○

永島家 庄屋

乾家 庄屋(煙草入れ製造販売)○

カミヤ(紙屋)○

ヤマダヤ(旅籠)○

キグスリヤ(薬屋)○

カラカサヤ(傘)○

チャベヤ(茶もみ)○

いもや(こんにやく販売)○

イシヤ(石材店)○

竹口屋(旅籠)○

アメ屋(水あめ製造販売)○

おきん屋(雑貨)○

白子屋(人力丁場)○

旧郵便局

明治二十八年に牛葉西堀木から移設

田所伝門商店

菅笠・草履のち肥料

白屋(こんべいとう)

新大盛(うどん屋)

中川座(芝居小屋回り舞台もあった)

奥田屋(溜り製造)

三木亭

旅籠を営んでいた森下家の「森」という字は「木」が三つで成り立っていることから三木亭と名づけられた。

和泉屋

江戸後期に永島本家より分家し「和泉屋」と号し酒造業、小間物店、旅籠を始め、例幣使や大名などの休憩所として利用され、又、江戸末期には、伊勢神宮の勅使三名と画家が避暑のため宿泊され、その時池村の三山と滝と五重塔と和泉屋の絵を描いてもらい、現在、軸にし保存している。



永島家

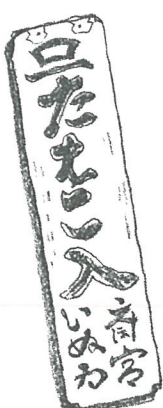
伊勢の国司、北畠氏の家臣で、江戸時代に山田(伊勢市)よりこの地に移住してきて庄屋となる。

江戸後期に曾我蕭白(画家)が祓川の川岸で倒れていたのが当家で介抱した。その礼に襖絵四四点を画いてもらった。

現在は三重県立美術館に所蔵されている。平成十年に「国の重要文化財」に指定された。又明治二年と十三年には明治天皇が伊勢神宮に行幸された時に往復とも寄られ休憩された。その時の部屋と菊の紋付きの「蹲踞」(ツクバイ)が残っている。

乾家

伊勢の国司、北畠氏の家臣で、天正四年に斎宮跡の南部を開拓し、「西堀木郷」(現在の牛葉と称しこの地の庄屋となる。江戸中期には「たばこ入 斎宮いぬい」の看板を掛け「擬革紙のたばこ入」を製造販売していた。現在の門はその時の物。



■お問い合わせ先

史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会

事務局
(明和町役場 斎宮跡・文化観光課内)
TEL 0596-52-7126

「美し国おこし・三重」

物語おこしプロジェクト
地域イベント事業



※本ガイドマップのイラスト・写真・地図の無断転載を禁じます。

